

サステナブル × 林業 × ライフスタイル

松本平の風景をつくる。



信州松本平の豊かな風景をつくる — それが私たちのミッション。

日本の気候風土は、樹木が育つのに適している。つまり手を入れないと山は荒れてしまう。木を「適度に」利用することが、天災の多い日本の安全な暮らしにつながるのだ。地域の木材を利用することは、環境負荷が小さい上、地域内での経済循環も生み出す。無垢の木に囲まれた空間は、免疫力向上効果もある。

山の活かし方は木材だけではない。本当の自分らしさを見失っている日本人は、自然の中で思い切り遊ぶことが必要だ。レクリエーションサービスは観光につながり、自然学校は教育につながり、癒しの森は心身の健やかさにつながる。多様な山づくりによって美味しい山の幸を授かることもできる。

山に囲まれた松本平。私たち柳沢林業は、山を知り木を知る木こりだからこそその商品・サービス、そして山づくり・地域づくりを通して、豊かな風景を生み出すべく活動している。それがこの地で暮らす人、この地を訪れる人の幸せにつながると信じて。

01 木こりがつなぐ森と街

木こりならではの製品企画・デザイン提案により街との接点をつくっている。山を知り木を知る林業目線での六次産業化により、流通の無駄を省き、素材を活かしたオリジナルな利用方法を提案。林業者が自ら木材の出口づくりを進めることによって、補助金頼みにならない本来の地域にふさわしい山づくりが可能となる。地元の木材業と積極的に協業し、地域の経済効果の創出も狙う。地域資源を、家具材・建材から薪・炭まで余すことなく利用することが、ひいては松本平らしい空間やまちなみ、ライフスタイルをつくると考えている。

02 馬と人がつくる里山デザイン

里山は、昔は共有林であった。ある時代を境に個人所有になったが、今やその仕組みが里山の荒廃を招いている。土地の所有者と麓の居住者と利用したい者が一致しない状況の中で、どのように里山を蘇らせるか。林業会社が単独で整備することは簡単だが、関係者を増やすことで、人々の主体的な関わりを生み出すことを狙っている。飼始めて5年になるヤマト（馬）を中心的存在に、町会とは異なるコミュニティが形成されている。単なるボランティアにならないよう、営みの創出とこどもの居場所づくりを両輪に里山を耕し続けている。

03 自然と調和する働き方

現在の林業は、補助金の都合により季節を問わず伐採を行うのが一般的だ。本来、夏季の木材は水分が多くカビやすいため、伐採は冬・農閑期の仕事だった。私たちは、冬には本業の伐採を行い、夏には農業やキャンプ場運営も行う。四季のある日本だからこそできる、自然の摂理に合った仕事の創出を目指している。社員の特技や興味を林業と掛けあわせることで、事業の幅を広げつつ、社員の仕事への満足度も高めている。馬方、農業、木工、キャンプ場を皮切りに、現在も様々な展開を模索中。「山のこと木のこと」は柳沢林業に聞けと言われるようなプロ集団を目指している。